

『地域アクションプラン』検討過程での有望素材の洗い出し

市町村名	土佐清水市	素材名	サメ
		関連素材	

現状・経緯	かつて、土佐清水市には、サメを目的とする漁業も行われていたが、サメを加工する業者がいなくなり、サメ漁業は廃れてしまった。その結果、サメが増え、漁業被害が頻発している。
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サメ肉には独特のアンモニア臭があり、それを除去しないと商品にならない。</li> <li>・サメ漁業を継続していくためには、200円/kg以上（頭、鰭、内臓除く）の浜値が必要。</li> </ul>
今後の展望	加工品の開発等により、サメの利用法が確立されれば、新たな産業創出とともに、食害の低減にもつながる。平成21年に市内の節製造業者らでサメ肉の燻製品を開発し、僅かではあるが、販売の見通しも立っている。また、土佐清水市の2社の第三セクターでもサメ肉を利用した商品開発を行う予定である。

※ 『素材名』欄は、「ナス」、「柚子」、「サバ」などの個別品目のほか、「木質バイオマス」、「地場産品のブランド化」などといった取り組みを記入していただいても結構です。

「有望素材」を元にした具体的な取り組み（案）

『地域アクションプラン』における具体的な取り組み案

取り組み名	さめ漁業復活に向けた取り組み
関係市町村名	土佐清水市

事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サメ漁業の試験操業</li> <li>・サメ肉の分析</li> <li>・サメ肉加工品の開発</li> <li>・サメ肉加工品の販路開拓</li> </ul>
事業主体等	<p>【事業主体】 土佐清水市水産振興協議会の見込み</p> <p>【関係機関】 高知県漁協清水統括支所、土佐食（株）、（株）土佐清水元気プロジェクト、土佐清水市、高知県土佐清水漁業指導所等</p>
スケジュール	<p>(H21:) サメ漁業の試験操業、サメ肉分析、加工品開発</p> <p>H22: サメ肉加工品の開発及び販路開拓</p> <p>H23: サメ肉加工品の開発及び販路開拓</p> <p>H24以降: サメ肉加工品の開発及び販路開拓</p>
総事業費等	<p>総事業費 千円 (うち22年度 千円)</p> <p>(内訳 国: 県: 市町村: その他: )</p> <p>想定する支援事業（補助金名称、人的支援の内容、その他）</p> <p>国:</p> <p>県: 産業振興推進総合支援事業、水産業総合支援事業</p> <p>人的支援: 工業技術センターによる技術支援、土佐清水漁業指導所によるトータルサポート</p> <p>その他:</p>
備考	H21年度水産業総合支援事業でサメ試験操業により、季節毎のサメの漁獲魚種構成及び量並びにサメ体成分の季節変動を調査中。

※ 記入できない項目は空欄で結構です。その場合、「今どういった状況で、いつ頃までに整理ができる見込みか」を、備考欄に記入してください。

『地域アクションプラン』検討過程での有望素材の洗い出し

市町村名	土佐清水市	素材名	竜串ふれあい観光施設整備事業
		関連素材	観光、交流

現状・経緯	<p>竜串地区は、1970年に日本初となる海中公園として指定された全国に誇ることができる自然環境に恵まれ、海のギャラリーや足摺海底館、足摺海洋館、グラスボートなどが整備されており、四国有数の観光地として栄えてきた。しかし、観光客数は、見る観光から体験する観光へシフトしていく中で減少の一途をたどっている。本市の基幹産業である観光業の低迷により、地域雇用の場の減少による過疎・高齢化が急速に進行している。このような中、地元観光業者による竜串観光振興会が中心となり、竜串の自然環境再生（サンゴの移植、オニヒトデ駆除等）や『花・人・土佐であい博』のイベントとして『竜串・見残し奇岩フェア』の体験ツアー、竜串湾のサンゴ群集による環境保全・自然環境学習イベントなどを実施し、観光客の満足度を高めるとともに、竜串ファンやリピーターの確保に繋げ、竜串地区の自然環境保全や地域活性化に取り組んでいる。</p>
課題	<p>竜串地区では様々な体験メニューを実施するための素材が存在するが、竜串観光振興会のみでの活動では実施者が不足し、資源を活かし切れていない。地域住民を巻き込み活動を強化し、より魅力ある体験プログラムの構築が望まれる。また、竜串市営駐車場脇に2棟10軒の売店があり、それぞれの経営者が運営しているが、品揃えが似通っており、観光客にはあまり興味を持ってもらえていないため、売店施設の集約化が必要と感じられる。</p>
今後の展望	<p>観光、漁業、農業の連携と地域が協働することで観光客に地域をまるごと知ってもらい、地域住民と語り合える施設や小動物等とふれ合える施設整備を実施することで、竜串の新しい魅力を発信することができ、竜串地域の活性化が期待できる。</p>

※ 『素材名』欄は、「ナス」、「柚子」、「サバ」などの個別品目のほか、「木質バイオマス」、「地場産品のブランド化」などといった取り組みを記入していただいても結構です。

有望素材を活用した具体的な取り組み（案）

『地域アクションプラン』における具体的な取り組み案

取り組み名	竜串ふれあい観光施設整備事業
関係市町村名	土佐清水市

事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NPO竜串観光振興会と竜串地域による課題整理と長期計画の策定</li> <li>・竜串売店施設2棟の集約整備</li> <li>・小動物ふれあい公園の整備</li> <li>・地域産業と連携した体験プログラムの開発</li> </ul>
事業主体等	<p>【事業主体】 土佐清水市、NPO竜串観光振興会</p> <p>【関係機関】</p>
スケジュール	<p>(H21:)</p> <p>H22:</p> <p>H23:</p> <p>H24以降:</p>
総事業費等	<p>総事業費 千円 (うち22年度 千円)</p> <p>(内訳 国: 県: 市町村: その他: )</p> <p>想定する支援事業（補助金名称、人的支援の内容、その他）</p> <p>国:</p> <p>県:</p> <p>人的支援:</p> <p>その他:</p>
備考	

『地域アクションプラン』検討過程での有望素材の洗い出し

市町村名	土佐清水市	素材名	土佐清水まるごと戦略観光展開事業
		関連素材	海の駅、体験プログラム、自然、交流、食、地域活動団体

現状・経緯	あしずり港交流拠点施設海の駅は、本来フェリーターミナルとして整備された施設であるが、フェリー航路廃止等の事情から、現在は土佐清水市観光協会事務所、ジョン万ハウス（ジョン万次郎資料館）、研修施設等として利用されている状況で、年間利用者数は約24,000名と交流拠点とはなりえていない現状である。しかし、大容量の駐車スペースや屋外ステージ、園地などが整備されており、来年には大河ドラマ『龍馬伝』の大河ドラマ館としての機能が整備されることから、大河ドラマ推進協議会に組織された地域活動団体や女性グループ等が主体的に活動し、おもてなしやふれあいを重視した観光の推進に向けた機運が高まってきている状況となっている。
課題	現在、地域活動団体がそれぞれに体験プログラムを実施しているが、受入人数に限界があり、団体観光客や教育旅行等には対応できていない現状にあり、郷土料理づくり体験など現地以外で体験可能なプログラムの受入拠点施設の整備が求められている。また、天候や海の状況に左右されない安定した体験観光メニューの開発や実施施設の整備も課題となっている。
今後の展望	土佐清水市の体験プログラムを整理・集約し、受入窓口を一本化して情報発信していくことで、お客様のニーズにきめ細かく対応でき、複合的な体験プログラムの提供が可能となるとともに、中長期滞在観光の推進が期待できる。また、大河ドラマ館開館期間中にPRを目的とした、体験プログラムの実施を予定しており、リピーターの獲得をめざすとともに、各活動団体同士の相乗効果が期待できる。

※ 『素材名』欄は、「ナス」、「柚子」、「サバ」などの個別品目のほか、「木質バイオマス」、「地場産品のブランド化」などといった取り組みを記入していただいても結構です。

有望素材の洗い出しを基にした具体的な取り組み案

『地域アクションプラン』における具体的な取り組み案

取り組み名	土佐清水まるごと戦略観光展開事業
関係市町村名	土佐清水市

事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海の体験交流拠点施設としての『海の駅あしずり』の再整備</li> <li>・観光圏整備事業計画と連動した長期滞在型観光の推進及び体験プログラムのワンストップサービスシステムの構築</li> <li>・異業種連携による新たな観光プログラムづくり</li> <li>・地域食材提供システム機能整備（地域食材のランチバイキング）</li> <li>・地域資源を活用した商品開発</li> </ul>
事業主体等	<p>【事業主体】 土佐清水市観光協会、土佐清水市、地域活動団体</p> <p>【関係機関】</p>
スケジュール	<p>(H21:)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体験交流施設整備工事（体験プログラム及び地域食材提供）</li> <li>・体験プログラム受発注システム開発</li> <li>・異業種連携による新たな観光プログラムづくり</li> </ul> <p>H22:</p> <p>H23:</p> <p>H24以降:</p>
総事業費等	<p>総事業費 (内訳 国: 千円 県: (うち22年度 千円) 市町村: 千円) その他: )</p> <p>想定する支援事業（補助金名称、人的支援の内容、その他）</p> <p>国:</p> <p>県:</p> <p>人的支援:</p> <p>その他:</p>
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大河ドラマ館、体験プログラム、ランチバイキングの運営体制（役割分担）</li> </ul>

『地域アクションプラン』検討過程での有望素材の洗い出し

市町村名	大月町	素材名	苺
		関連素材	

現状・経緯	農業の新たな取組(後継者育成及び農業所得の向上及び耕作放棄地対策を含めた一次産業の振興)として、4人の青壮年が平成20年1月に設立し、苺を核とした6次産業を行っている。当社の理念である『人間関係、想い=信頼関係、信用』を重視した生産、販売戦略により、生鮮苺から加工品までの販路も20年度は28件であったものが、21年度6月で60件に拡大している。大月町が目指す販売戦略である地産外商(町まるごと販売)を当社が一次産業の振興を含め先進的な取組をしており、大月町の産業振興の取組とも連携している活動である。
課題	法人設立から、わずか2年弱という短い期間であり、また少ない資本金でスタートしたことなどから、経営面での不安定さが危惧されていたが、運営資金や投資資金の見込みがたち、「消費者の反応も良い(契約店舗数の増)」ことから、事業規模拡大に向けた展望は明るいものと判断をする。経営の安定化には、販路開拓や広告宣伝に要する投資的経費や原材料確保のためのハウス施設及び冷凍庫を整備するための予算獲得が大きな課題となっている。
今後の展望	生産面においては、販路に比例した原材料の生産体制が確立されていない。現在の加工商品は苺氷りの1商品のみでの販売展開であり、企業としての商品力の弱さと通年の雇用形態を確保できない課題もある。

※ 『素材名』欄は、「ナス」、「柚子」、「サバ」などの個別品目のほか、「木質バイオマス」、「地場産品のブランド化」などといった取り組みを記入していただいても結構です。

有望素材を基にした具体的な取組案(案)

『地域アクションプラン』における具体的な取組み案

取組み名	農業を核とした6次産業化
関係市町村名	大月町

事業の概要	当社の原材料である苺の施設園芸面積の拡大に向け施設の増設を行うことにより、生産量の増加及び生産に携わる従事者の雇用拡大が図られる。 また、町の施設園芸農家の所得が厳しい中、新たな転換作物としても示唆でき、町内の農業者へ生産委託できるような仕組みづくりもあわせ、苺の産地化をめざす。 当社の理念でもあり強みでもある消費者及び委託先等とのコミュニケーションにより把握しているニーズを商品開発に活かし、通年での商品展開及び、苺=大月町になる大月町の特産品開発を行う。また、モニタリングにおいても業者委託ではなく、自らが消費者とコミュニケーションを図り商品化をめざす中で、町のPRも踏まえた総合的な販売促進活動を行うっていく。 販売については、人力活動を行う中で販路拡大は図れているが、生産の向上及び加工品がより拡大することを視野に入れ、更なる販路開拓にむけた人力活動を行うとともに、通信販売等の販売戦略についても具体的に検討し、安定した流通を確保し、所得向上を目指す。
事業主体等	【事業主体】 農業法人 苺氷り本舗  【関係機関】 大月町
スケジュール	(H21:) H22: 販路開拓及び広告宣伝活動費 H23: 250aのハウス増設及び冷蔵庫購入(30,000千円)及び販路開拓、広告宣伝活動費(2,500千円) H24以降:
総事業費等	総事業費 35,000千円 (うち22年度 2,500千円) (内訳 国: 県: 17,500 市町村: その他: 17,500)  想定する支援事業(補助金名称、人的支援の内容、その他) 国: 県: 人的支援: その他:
備考	

※ 記入できない項目は空欄で結構です。その場合、「今どういった状況で、いつ頃までに整理ができる見込みか」を、備考欄に記入してください。

『地域アクションプラン』検討過程での有望素材の洗い出し

市町村名	四万十市	素材名	栗
関連素材	栗園、四万十の自然と景観 等		

**現状・経緯**  
 四万十市西土佐地区は、「日本最後の清流」といわれる四万十川の中流域に位置する。流域の北橋地域（旧西土佐村、旧十和村、旧大正町）は冬と夏の寒暖の差が激しく、この地域で収穫される栗は、甘くて風味豊かな四万十の栗として一定の認知度を持つ。数年前から、県内外の菓子企業に原料提供を行っており、近年の食に対する安全志向や輸入離れといった面からも、今後もさらなる市場の拡大を見込めるものである。その一方、生産者の高齢化や獣害の影響により、荒廃の進む栗園が年々増加している。また、「自然条件に左右されやすい」「投資をしてもすぐに結果がでない」「獣害」「収穫期が短い」「鮮度管理が難しい」など、生産者のハンディも大きい。このようなことから最盛期には約300tあった生産量もここ10数年の間に9割減少し、現在では約30t程度の生産量となっている。また、原料提供のほかにも、剥き栗や煮栗といった加工品の需要もあるが、その加工のほとんどが地区外に流出している。これらの状況を解消していくため、全国的なブランド訴求力のある四万十のネームバリューを活かした産業の育成と、それによる地域の自立が強く望まれている。

- 課題**
1. 耕作放棄地の再生
  2. 獣害対策
  3. 栗の高付加価値化
  4. 地理的ハンディの克服
  5. 「四万十ブランド」を形成できる商品群の開発と販路の確保
  6. 地域情報発信とファンづくり

**今後の展望**  
 西土佐地区で300tを超える生産潜在能力をもつと考えられる「四万十栗」の産業化を確立するため、「新冷蔵技術を活用した保存技術の開発」「1.5次加工」「四万十栗を活用した新商品の開発」と「栗園の再生」に取り組む。また、商品を体験してもらうだけでなく、実際に西土佐地区に足を運んでもらい、地域を体験してもらうことで、地域・企業・消費者を巻き込んだ仕組みづくりを展開し、新しい観光産業を創出し、情報を発信することで、地域ブランド確立の足がかりとする。

※ 『素材名』欄は、「ナス」、「柚子」、「サバ」などの個別品目のほか、「木質バイオマス」、「地場産品のブランド化」などといった取り組みを記入していただいても結構です。

有望素材（冬産）の具体的な取り組み案（案）

『地域アクションプラン』における具体的な取り組み案

取り組み名	地域特産資源再生事業（栗再生事業）
関係市町村名	四万十市西土佐総合支所産業建設課

<b>事業の概要</b>	<p>四万十栗再生プロジェクト</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 西土佐地区で「四万十栗」の産業化を確立するため「新冷蔵技術を活用した保存技術の開発」「1.5次加工」「四万十栗を柱とした新商品の開発」「栗園の再生」「菓子企業との契約栽培」に取り組む。</li> <li>2. 四万十栗再生プロジェクトを実現するため、地域栗園の整備、企業栗園の設置、栗の高付加価値化、地理的ハンディ克服手段の開発、地域ブランドを形成できる商品群の開発、ファンクラブの組織化等に取り組む。</li> </ol>																																			
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>品目</th> <th>規格</th> <th>数量</th> <th>単価</th> <th>金額</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>加工場</td> <td></td> <td>一式</td> <td>3,000,000</td> <td>3,000,000</td> <td>休校舎活用を検討</td> </tr> <tr> <td>水感庫</td> <td></td> <td>一式</td> <td>15,000,000</td> <td>15,000,000</td> <td>水感庫の購入</td> </tr> <tr> <td>機械</td> <td></td> <td>一式</td> <td>5,000,000</td> <td>5,000,000</td> <td>皮剥機等</td> </tr> <tr> <td>獣害ネット</td> <td></td> <td>一式</td> <td></td> <td></td> <td>規模等は栗園調査結果待ち</td> </tr> <tr> <td>人件費</td> <td></td> <td>年間</td> <td>4,500,000</td> <td></td> <td>正社員1、パート3</td> </tr> </tbody> </table>	品目	規格	数量	単価	金額	備考	加工場		一式	3,000,000	3,000,000	休校舎活用を検討	水感庫		一式	15,000,000	15,000,000	水感庫の購入	機械		一式	5,000,000	5,000,000	皮剥機等	獣害ネット		一式			規模等は栗園調査結果待ち	人件費		年間	4,500,000	
品目	規格	数量	単価	金額	備考																															
加工場		一式	3,000,000	3,000,000	休校舎活用を検討																															
水感庫		一式	15,000,000	15,000,000	水感庫の購入																															
機械		一式	5,000,000	5,000,000	皮剥機等																															
獣害ネット		一式			規模等は栗園調査結果待ち																															
人件費		年間	4,500,000		正社員1、パート3																															

**事業主体等**  
**【事業主体】**  
 四万十市西土佐商工会（仮）、将来的に会社組織として運営「仮称：西土佐四万十栗屋」  
**【関係機関】**  
 四万十市西土佐商工会 JA高知はた西土佐支所 四万十市西土佐総合支所 幡多農業振興センター

**スケジュール**  
 (H21:) 今秋に向けて法人（又は組合）設立の準備中。体制構築および商品開発また開発された商品の全国市場への販路開拓支援。ブランドイメージづくり。  
 H22: 集荷場および加工場を展開し、出荷約3t（収穫約6t、歩留率50%）をめざす。食品の長期保存と熟成、また殺菌効果（無農薬栗の展開が可能となる）が確認されている水感庫を導入。  
 H23: 出荷約5t（収穫約10t、歩留率50%）をめざす。栗による産業化を目的とするため、3年間は菓子企業への剥き栗および煮栗（水煮・蜜煮）を中心とした事業を展開する。  
 H24以降: 出荷約10t（収穫約20t、歩留率50%）をめざす。4年目以降は、一般消費者への直販や直売店の展開等についても検討し、将来的には栗収穫量約30tをめざす。

**総事業費等**

総事業費（※1）	千円	（うち22年度	千円）
（内訳	国：	県：	市町村： その他：）
想定する支援事業（補助金名称、人的支援の内容、その他）	国：	県：	人的支援： その他：

**備考**

※ 記入できない項目は空欄で結構です。その場合、「今どういった状況で、いつ頃までに整理ができる見込みか」を、備考欄に記入してください。